

生産能力の向上

新固形剤棟の竣工で生産能力が大幅に向上

第二九州工場で2022年から建設を進めていた新固形剤棟が2024年7月に竣工し、同年12月から出荷を開始しました。新棟の完成により、サワイグループの年間生産能力は、従来の185億錠から一気に20億錠増の205億錠へと拡大しました。新棟では、2025年度に9億錠、2026年度には16億錠と段階的な増産を計画しております。さらに2027年に予定されているStep2の完了後には15億錠を追加し、グループ全体の年間生産能力は合計220億錠に達する見込みです。これにより、ジェネリック医薬品業界における日本最大級の実産能力を確立します。

新固形剤棟では製造・管理システムを導入しています。具体的には、MES(製造実行システム)による入荷から出荷までの一元管理やLIMS(ラボラトリー情報管理システム)による品質試験・設備の統合管理など最先端のシステムを導入し、ヒューマンエラーや不適切な出荷を未然に防止する体制を構築しました。加えて、改良型中間製品自動倉庫システムを採用し、高層ラック保管によるスペース最適化、上下自動搬送と自動入庫による作業効率向上、倉庫と製造室を直結させることで、搬送時間を大幅に短縮していま

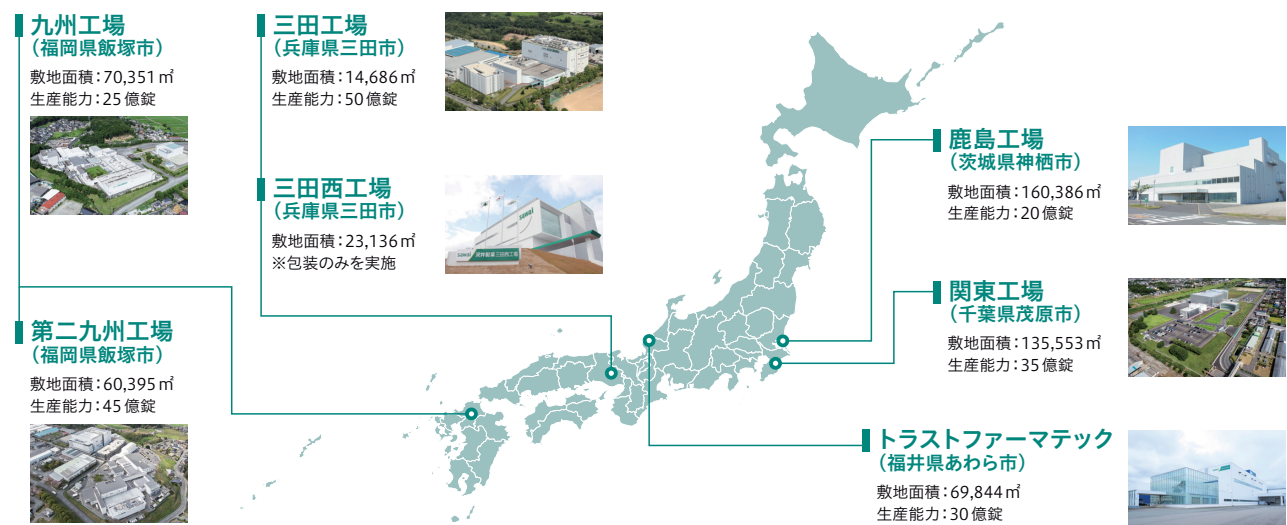
す。また、2基のクレーンによるコンベアレス化で、生産効率の飛躍的な向上を図っています。

限定出荷の解除と安定供給に向けた対策

近年の医薬品の供給不安に応えるため、当社グループは生産能力の拡大と限定出荷の解除を最優先課題として取り組んでいます。ジェネリック医薬品を必要とするすべての人々に、安全かつ高品質な製品を安定してお届けすることは私たちの社会的責任であり、率先して限定出荷の解除を推進しています。特に、2024年7月以降積極的な限定出荷解除を実施し、120品目超の解除を実現しました。

第二九州工場の新固形剤棟と並んで、生産能力の拡大の柱となるのが、2023年4月に稼働したトラストファーマテックです。同社は年間30億錠の実産能力を有していますが、他工場から品目を移管した結果、2024年度には8.8億錠を生産しました。沢井製薬の工場で研修を受けた人材がトラストファーマテックへ復帰することに加え、積極的な採用活動を進めることで、2025年度以降さらに稼働率を高め、できるだけ早期に最大能力での生産を実現してまいります。

生産拠点



担当役員メッセージ

安定供給と品質向上の実現に向けて、
盤石な供給体制づくりに全力で取り組んでいます

常務執行役員 グループ生産統括役員(グループCPO) 蓮尾 俊也



沢井製薬は「なによりも患者さんのために」という企業理念のもと、高品質なジェネリック医薬品の安定供給に全力で取り組んでいます。中期経営計画では、ジェネリック医薬品市場における着実な成長とビジネス持続性の確立を重点テーマとし、2025年度の生産本部方針において「SAWAI 品質・供給体制の盤石化」を目標に掲げました。

生産体制強化の一環として、第二九州工場の新固形剤棟は2024年12月に出荷を開始し、今後の設備投資に伴い段階的に増産を計画しています。また、トラストファーマテックでは他工場からの品目移管を進め、さらなる稼働率向上を図ってまいります。

この生産能力を最大限に活かすため、人材の確保と育成にも注力しています。2025年4月には生産本部に新卒社員190名を迎え、組織基盤の強化を進めました。また、中途入社者も多く採用し、「マインドセット研修」を実施し、医薬品製造に携わる社会的使命と役割の重要性の再認識を図っています。普段社外と交流の少ない工場従業員に「自分たちが社会から求められていること」を実感してもらい、工場従業員のモチベーション向上につなげています。

従業員メッセージ

九州工場 製造部 徳丸 佳祐



マインドセット研修を通じて、コミュニケーションの重要性とその効果を高めるために意識することを学びました。今後は自ら工程間の橋渡し役となり、前後の工程との連携を深めながら、スムーズで正確な情報伝達に努めていきます。

研修では、MRの方から直接話を聞く機会を得ました。患者さんや医療従事者と接している方の生の声から、医薬品を製造する私たちの最も重要な役割は「信頼」にあることを再認識しました。患者さんや医療従事者からの信頼を得て、その信頼を決して裏切らないことが私たちの使命です。この経験を通じて、医薬品製造が社会インフラのひとつであり、社会に不可欠な基盤であることを実感しました。私たちの仕事は社会の健康と安全を支える重要な役割を担っているからこそ、常に社会の注目を集めます。人々の健康を支える仕事に誇りを持って取り組みたい思いを強くしました。

この研修は、医薬品製造に携わる者としての誇りと責任を再認識する貴重な機会となりました。学んだことを日々の業務に活かし、社会の期待に応えていきたいと思っています。

従業員メッセージ

鹿島工場 品質管理部 玉木 和佳



マインドセット研修を通じて、効果的なコミュニケーションの重要性を学びました。これは品質管理という私の業務に直結しています。試験指図や記録書の内容に誤りがあれば、逸脱や品質不良の医薬品を患者さんに届けてしまう危険性があります。職場の皆さんと相互的なコミュニケーションを密に取ることで、こうしたリスクを未然に防げることに気がきました。

また、営業の方のお話は特に印象的で、失った信頼の回復がいかに困難かを実感しました。工場では患者さんや医療従事者との直接的な接点が少ないため、目の業務完遂だけが目的になってしまうことがあります。しかし、私たちの些細なミスや見落としが、患者さんの健康や会社の信頼に直結することを改めて認識しました。今後も一つひとつの行動に留意するとともに、業務環境の整備にも努め、品質管理業務の効率化とミス防止に取り組みます。この研修で得た学びを日々の業務に活かし、患者さんの安全と会社の信頼を守る重要な使命に誇りを持って取り組んでいきます。